

Zona-free 卵子が受精後に 2 つの胚盤胞に発生した 1 例の扱いについて

北山 利江¹、中岡 義晴¹、中村 春樹¹、山内 博子¹、松岡 麻理¹、太田 志代¹、勝佳奈子¹、門上 大祐¹、森本 義晴²

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【緒言】2 絨毛膜 2 羊膜性双胎（DDtwin）は 2 卵性だけではなく 1 卵性でも起こりうる事が知られている。単一胚移植あたりの DDtwin となる確率は、他院で 0.24%(13 件/5415 移植)であったとの報告もあり、当院でも 2020 年 1306 単一胚移植あたり 5 例に認められた。そのいずれも胚には双胎となり得る所見は認められていなかった。

今回、受精後 5 日目に透明帯を有さず ICM と TE が 2 分割し一卵性双胎となる可能性が示唆された稀少な胚を認めた。その後の胚の扱いを迷う症例を経験したので報告する。

【症例】症例は妻 30 歳，夫閉塞性無精子症の適応で体外受精となった。未経妊，夫婦に特記すべき既往歴や家族歴はない。精巣内精子回収法後に精子凍結した。妻 AMH6.12ng/ml，胞状卵胞数 21 個，OHSS のリスクを避けるため黄体ホルモン下卵巣刺激法を選択した。17 個採卵，16 個成熟，15 個受精した。そのうち 1 個は透明帯をみとめず，day5 で不完全に 2 分割（6BB/6BB）していた。他の胚は通常どおり day3 で妊娠可能胚 1 個，胚盤胞（4BB，5CB）2 個を凍結した。

【考察】本症例の一卵性双胎になる可能性のある 2 分割胚盤胞を移植すると産科的双胎のリスクが懸念される。しかし，双胎のリスクを避けるために 6BB と 6BB を人為的に完全に分割することは，クローン作成に該当する可能性が考えられる。また，2 分割胚が，融解後，自然に完全に分離する場合は倫理的に 2 個移植しなければならないのか，医学的に双胎を避けるために 1 個のみの移植に留め，残された胚はクローン胚として廃棄すべきか，夫婦が望む場合には凍結保存による次子として移植可能かどうかなど，考える必要のある胚を経験した。